

いがおえ工

院長、夏!真っ盛り!!

ニックネーム:

本誌へのメッセージ:



きりとり

ほっとニュース

厚生労働省から感謝状をいただきました。

東日本大震災に対する医療活動支援に対し感謝状をいただきました。今後も支援を行って参りたいと考えています。



防災活動取組に対して表彰されました。

鈴鹿市防火協会から日頃の防災活動取組に対して団体の部で表彰されました。



8月8日(木) 夏フェス開催します!!

開催時間 18:00~20:30
場所 当院グラウンド(雨天時 体育館)
盆踊りはもちろん、恒例のぼんぼりコンテストに流し灯籠、よさこいバンド演奏で暑い夏の夜を盛り上げます。



●外来診療担当医表

		月	火	水	木	金
午前	初診	交代制	交代制	交代制	交代制	交代制
	再診	高山	中澤	林	西浦	鈴木
午後	再診	河合	西浦	野村	高山	
			野村			

担当医は都合により変更になる場合があります。ご了承ください。

理念 ささえあい、ともに生きる

基本方針

- 患者さまや地域の皆さまに、信頼され選ばれる病院づくりを行います。
- 患者さまが地域で快適な生活が送れるよう、積極的にサポートします。
 - 患者さまの人権を尊重し、きめ細かく配慮します。
 - 患者さま一人一人の治療プランに添った医療を行い、一日も早い家庭・社会復帰を目指します。
- 地域におけるメンタルヘルスに積極的に取り組みます。
 - 医療の質向上に向けて日々研鑽を積みみます。

編集後記

今号は「副院長のご挨拶」などをお伝えしました。さて、広報委員のスタッフは「Live with すずか」の名のとおり、皆さんと一緒に創っていきたくと考えております。本誌へのご感想やご要望・ご意見がございましたらお気軽にご連絡ください。

TEL・059-382-1401(代表) FAX・059-382-1402
Eメール・info@skh.miekosei.or.jp

三重厚生連 鈴鹿厚生病院

第34号

2013.7月

発行/三重県厚生連鈴鹿厚生病院
編集/TCK 名古屋
所在地/三重県鈴鹿市岸岡町589-2
TEL/059-382-1401
ホームページ/http://www.miekosei.or.jp/skh/

ともに生きる... Live with すずか

地域の皆さんのお役に立ちたい情報誌

副院長のご紹介

～チーム医療の充実を図り、この地域の精神科医療に貢献したいと思います～



副院長 中瀬 真治

ご挨拶

皆さん、こんにちは。私こと4月1日付けで当院の副院長を拝命しました。ここにひとことご挨拶を申し上げます。私は、当院に平成16年7月に入職しました。それまでの9年間は、精神科は外来のみで医師がひとりだけの総合病院に勤務していました。そこでは外来の新設から関わり、患者さんとは一緒に頑張ってきたとの思いから“盟友”といった気持ちで日々の診療に臨んでいました。当院への異動は研修が目

的で、1年後には総合病院へ戻る予定でした。しかし、実際に来てみると院内外が多職種が協働するチーム医療に強く心が動かされ、関係する方々にはたいへんご迷惑をおかけしましたが、考え抜いた末に当院に留まることを決めました。それから9年ほどの間に、当院では訪問看護の充実や精神科救急病棟の開設、アウトリーチ支援活動などの治療環境が整ってきました。ここでもチーム医療の果たす役割が大切であったことは言うまでもありませんし、これからは鍵となるはずで

ささえあい、ともに生きる

かつて総合病院で学んだ「患者さんとのパートナーシップ」とともに、当院で知った多職種との協働にさらに磨きをかけ、ひいてはそれが少しでも地域の精神科医療に役立てばと考えています。「ささえあい、ともに生きる」という理念のもと、これまでの経験や当院の持ち味を十分に発揮しながら、今後は副院長としての職責を果たしていくつもりです。どうぞ皆さんよろしくお願いいたします。

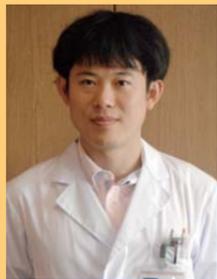
心の健康セミナー 誌面版

心の健康セミナー誌面版は「こころ」に関するテーマに沿って
毎号連載していくコーナーですが、今号は、4月から赴任の新任医師のご紹介です。

テーマ 新任医師のご挨拶

初めまして。今年4月から、こちら鈴鹿厚生病院に勤務することになりました鈴木拓真と申します。昨年度までは鈴鹿中央病院にて研修医として2年間勤務していました。その鈴鹿中央病院での研修中に、その一環で何度か当院でも研修させていただく機会がありました。その際に当院の雰囲気の良いと感じたからです。まだまだ精神科医としては駆け出しではありますが、皆さんと協力し話し合いながら治療の方針を考えていきたいと思っています。皆さんの力になれるよう精一杯頑張っていきますので、よろしくお願

いいたします。



鈴木 拓真医師

薬のミニミニ情報



こわ~い 『薬による光線過敏症』

紫外線の強い季節となりましたが、薬と紫外線により引き起こされる免疫システムの反応『光線過敏症』についてお話します。原因薬剤（クロルプロマジン等の抗精神病薬、テグレトール、一部の抗菌剤・消炎鎮痛剤・降圧薬）等により皮膚に紅斑、浮腫、皮疹等が出現することがありますが、これは日焼け止めや帽子等の使用で遮光することで予防ができます。それでも心配な方は、自分の薬について医師・薬剤師に確認して



シリーズ6 アウトリーチの現場から

アウトリーチとは何なのか。

実際にアウトリーチの現場で働く精神保健福祉士である「アコ」(仮名)と相談者である「サチ」(仮名)。そしてその家族の様子を連載でお伝えします。

家族会議開催

病気の理解と過去の書き換え

気持ちのいい初夏の午後、めいっばい青空がまぶしい日となりました。毎週金曜日11時。訪問を始めて6か月が経ちなんとか本人と会えるようになった。サチさんの『他者が自分の居住スペースに入ってくる』にも慣れ、ほとんどコミュニケーションは成り立たないが、同じ時間同じ場所で過ごすことができるようになった。アウトリーチスタッフからすれば、当初の状況を考えるとものすごい前進だ。しかし、家族や親族にとってはなんとも歯がゆい時間だろう。精神科病院のスタッフが毎週1回訪問するだけで、何か目に見える治療をしているわけでもない。真っ暗な部屋に入り込み、一緒に何やら話しているだけ……。ましてや一緒に掃除をしたりすることで、今では問題行動となっている「掃除」を助長しているとも捉えることができる。

夫：「毎週毎週通ってもらっているのはありがたいですけど、ほとんど変わりませんよねえ。同じところばかり掃除して、必要なものまで全部捨てるし、料理作っても同じものばかり……」

義兄：「結婚したころは、働きもんでしっかりした娘さんやったけど、病気になってからは困ったもんやわ。真夜中に電話か

かってきて、訳のわからんこと言うし。子供のことも放ったらかしやし、もう入院させてずっと居てもらわんと」

《家族会議開催》

今まで見守ってくれていた夫も「この先どうするんですか?」と苛立ちを隠しきれずアコに詰め寄った。訪問終了後にいつも支援状況を伝えてきたが十分ではなかったようだ。

そこで、アコは夫や親族に集まってもらった。アコは統合失調症についての一般的な疾患説明(たとえば、統合失調症では『完治』という言葉は使わず、再燃と寛解という病状が良くなったり悪くなったりする波がある等)やサチさんの過去のエピソードは病気に関係していることを家族に説明した。

また夫や家族のサチさんに対する言葉にできない不安や苛立ちを傾聴した。そして、今後の展望などを話し合い、家族会議は3時間にも及んだ。

夫：「そうですね……。やっぱり時間がかかりますか。」

義兄：「病気が治りきるというのは難しいんですね、再燃と寛解ですか。」

義姉：「あの時の騒ぎは、子どものことを想ってのことかもしれないなあ。」

家族会議が終わった後、帰りの車の中で、アコ：「サチさんへの苛立ちはかなり伝わっていただろう、それが病状に影響しているんだろうなあ、サチさんにばかり目を向けていたのかもしれない。」

アコは家族支援や心理教育の重要性を再認識した。

~次号へつづく

♡ 簡単さっぱり干物寿司 ♡

◆「酢」

酢飯に使われる「酢」は疲労回復に効果があり、また食べ物を腐りにくくするので夏におすすめの食材です。今回は簡単にできる干物を使った混ぜ寿司を紹介します。高血圧症などにより塩分制限を行っている方は、干物は分量にして塩分を控え、青じそを多めにしてお楽しみいただけます。



1 【酢飯をつくる】

固めに炊いたご飯をボール等に入れ、Aをよく混ぜたものをしゃもじに当てながら全体にふりかけ、切るようにまぜる。(うちわであおぎ、急速に冷ますと良いツヤがでる。)

2 あじの干物は両面を焼き、皮・骨を除き粗くほぐす。

3 きゅうりは薄い輪切りにし、塩小さじ1(分量外)をまぶす。しんなりしたら水洗いをして、水気をしぼる。

4 青じそはせん切りにする

5 酢飯のあら熱がとれたら、②③と白ゴマを混ぜ、青じそを散らして完成。

院内散策

慧いのPOINT

病院の周りを歩いてたら
ちょっと変わった花をみつけました。
なんていう名前なんだろう……
そんなことを考えながら
ぼーっと眺めるのも
なかなかいいものです。
今回の写真は
デイケアのメンバーが撮ってくれた
ものを使用しました。
素敵な写真だなあ~



作業療法 作品紹介

作品名 「ドイリー」

作者のコメント

初めて挑戦しました。
何度も失敗を繰り返して
完成しました。

